



2022年12月23日

各位

会社名 株式会社 plus zero
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 小代義行
(コード番号: 5132 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 浅川耀佑
(TEL. 03-6407-0212)

2022年10月期通期決算に関するQ&A及び決算説明動画公開のお知らせ

2022年12月14日に公表した当社の2022年10月期決算説明会に関しまして、公表以降に株主様、投資家様などの方々から頂戴したお問合せ、ご質問等に関しまして、その内容と回答を下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年12月14日に開催した、決算説明会動画を公開いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであります。決算内容の詳細につきましては、末尾<ご参考>に記載しております決算短信及び決算説明資料をご覧ください。

記

2022年10月期通期決算説明会動画

ご視聴 URL : <https://youtu.be/-jscj2MqnLw>

Q1. 中期経営目標について、差支えのない範囲内で構いませんので、現時点で共有できるものがあれば教えていただけますでしょうか？

中期経営計画等に関しましては、2023年1月に開示予定となっております。

Q2. 2023年10月期の業績予想について、当期純利益予想が減少していますがその要因について

2023年10月期の業績予想については、前年度比で▲12百万円(▲10.5%)となっております。この主な要因といたしましては、前年度に投資有価証券の売却益として特別利益が20百万円、繰越欠損金による法人税額の支払減の特殊要因があったことによるものであり、特殊要因を除けば前年度比で増加する形となっております。

Q3. AI&IT関連は開発競争も激化しており、市場の取り合いとも思っております。開発スピードに関して、他社と比較して優位はありますか？

AIに対するバリューチェーンは、ワンストップで提供できることが優位性と考えております。開発スピードに関して、他社より優位性があるものとしては、弊社人材のポートフォリオ。自分の専門分野だけでなく、隣の領域までわかるという人材育成をしている。社内分業にならないことで、コミュニケーションのロス、分割発注した時と同じような問題が起きない。工程を重ねながら、次の工程も先にできるものはする。それにより早く価値提供ができることが特長です。

実際の顧客事例ですと、抽象的な課題に対して、AIアプリケーションを開発、市場にリリース、社会に提供を1年間で実現。驚異的な速さであると評価いただいております。

Q 4. 来期数値は保守的な数値でしょうか。

保守的な数字だと思っていただいて問題ないです。弊社の方針として、数字をどちらにしようか悩んだときは、保守的な数字をとるという方針でございます。

Q 5. 売上に関しては季節的な偏重はありますか？

大きな偏重はございませんが、多少の季節的変動制はございます。顧客企業様に3月決算の会社が多い影響で、3月までの売上は上がる一方で、4月は発注が微減する傾向がございます。

右肩上がりのグラフを成長イメージとして持っているが、3月と4月の間で谷ができるグラフとなっております。

四半期ごとに区分けした場合、第3四半期から第4四半期で売上が向上していく形となっております。

Q 6. サービス型の取引先が増えていく目途はありますでしょうか？

公開済みの情報としては、丸紅情報システムズ株式会社、株式会社アビストとなっております。一方で非公開の会社として、商社様と取り組みをさせていただいております。現時点での詳細な見込みはご説明できないが、将来的には増加させていく計画でございます。

今期の新しい取り組みに関しては、来期以降に結果として出る予定の為、決算の数字上のインパクトは現時点では大きなものではございません。26年10月期目標までにAEI研究も進み、それに伴い新しい提携先も増える見込みでございます。

Q 7. 上場の期待値は高かったのですが、会社として株価は気にしていますでしょうか？IRを出す等、積極的な姿勢はありますか？

【株価に関して】

ももとの公開価格は1650円、そのままあがっていったことに関して、想定していた以上には期待していただけただのだと実感しているし、期待に応えたいとは思っております。第3世代AIに全力集中すれば短期的な売り上げはあがるが、我々のやりたいことはAEIの実現であり、そこはぶれたくない部分であると思っております。AEI実現が株主利益の最大化に繋がると考えており、短期的な期待にこたえつつも、長期的なゴールはぶれないようにしたいと考えております。

【IRに関して】

積極的な姿勢で出せるものは出したいと考えております。AIに関しては外部のパートナーがいることがほとんどの為、パートナーの意向による部分があるため、出せるタイミングで適切な開示を出していきたいと考えております。

Q 8. サービス型の利益率は何%でしょうか？

2022年10月期に関しては、具体的な数字はまだ伝えられないが、高い水準の数字でございます。

2023年10月期に関しては、ソフトウェアの資産計上にかかる償却費が発生する関係で利益率は低下いたしますが、プロジェクト型よりは高い数字は確保している状況でございます。

Q9. プロジェクト型の人月単価は上がる見込みはありますか？

プロジェクト型の人月単価は、AIの受託中心をしている会社の人月単価としては、低い水準であると思っており向上していきたいと考えている。来期に関しては、2022年10月期の1.46百万円より高い数字をあげられるかのコミットは難しいと考えております。この数時間に関しては、多少ばらつく数字だと考えております。採算のとれる案件、大規模プロジェクトが今期も継続できれば向上する可能性が高いが、当社としても、初めてのチャレンジなので読めず、具体的な数字は出せない状況であります。

<ご参考>

- ・2022年10月期 決算短信〔日本基準〕（連結）2022年12月14日公表
- ・2022年10月期 決算説明資料 2022年12月14日公表

以上

免責事項

- ・本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ・本資料は、2022年12月14日公表の2022年10月期決算の内容に関して頂戴したご質問等などの内容に基づき、一部表現を修正して公表するものであります。
- ・本資料に記載される情報は、いわゆる見通し情報を含んでおり、当該情報は本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性があることをご承知おきください。